



# 2020年度 事業報告書

特定非営利活動法人 日本アンプティサッカー協会  
Japan Amputee Football Association



## 住所

東京都港区芝浦1-2-1 シーバンスN館 兼松株式会社内  
大阪府大阪市天王寺区悲田院町3-9 (西日本支部)

## 法人設立

2013年 4月1日

## ウェブサイト・お問い合わせ先

[www.j-afa.jp](http://www.j-afa.jp)

[support@j-afa.jp](mailto:support@j-afa.jp)

## ソーシャルメディア



日本アンプティサッカー協会



@jamputees



日本アンプティサッカー協会



jamputees



# I. 事業期間

2020年4月1日～2021年3月31日

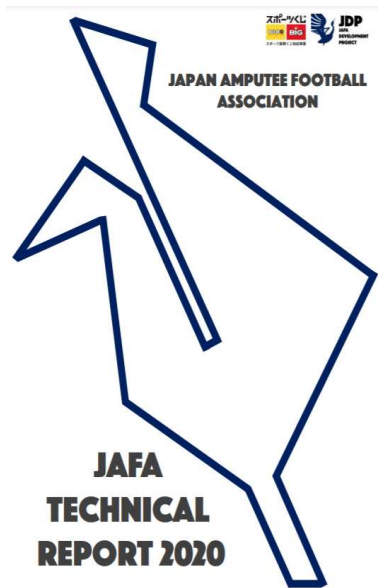
# II. 事業の成果

特定非営利活動法人日本アンパティサッカー協会は、2020年度強化事業として計画していた第七回レオピン杯CopaAmputee、西日本アンパティサッカーリーグ、第10回日本アンパティサッカー選手権大会の開催について、新型コロナウイルスと向き合いながら、日本サッカー協会からの指針や医療専門スタッフのアドバイスを受けたりと、様々な状況下でのシュミレーションを行いました。

そのうえで各チームの参加意向や選手・スタッフへの安全面を最大優先事項として鑑みた結果、感染拡大の懸念から中止もしくは開催時期未定の延期を決定いたしました。

東日本アンパティサッカーリーグにつきましては、選手がプレーできる最低限の機会を確保する事を念頭に事前告知せずに限られた人員にて開催し、試合会場では検温や健康状態の把握、備品をアルコールで除菌する等、徹底した安全管理の下で実施いたしました。

この度、強化委員会では、2019年に開催した東日本リーグ及び西日本交流戦の試合内容の分析や選手のインタビューを取りまとめた『JFAテクニカル・レポート2020』を10月に発行いたしました。



**JFA TECHNICAL REPORT 2020**

■ はじめに

『JFA テクニカルレポート 2020』の発行にあたり、JFAテクニカルスタッフグループ（以下、『JFA TSG』）をはじめ、ご協力いただいた関係者の皆様衷心より御礼申し上げます。

JFA TSGは、2018ワールドカップキリンコ大会を前に、日本代表チームの強化に資するべく強化強化指針を構築するべく代表監督である杉野正幸氏の発案により組織されたことが始まりでした。今日においては、ワールドカップの開催年度にあわせて活動するだけでなく、強化委員会における常設部門として、国内の競技大会等の競技データの収集、整理、蓄積という役割を担うまでになりました。一部のトップレベルプレイヤーのみならず、全てのプレイヤーに対して包括的な有益性のある情報発信に期待が寄せられます。

アンパティサッカーは国際的に発展しつつあります。このテクニカルレポートは特定の大会等の記録を整理し競技データを可視化させるとともに、トレンドや技術および戦術上の特徴等を踏まえ現在のアンパティサッカーがどのような段階にあるかということに波及し、今後の目標設定に向けた提案が求められます。本報目の特性上、当然ながら競技力向上のみならず、あらゆるデジタルの作成に対応した情報発信についても留意する必要があります。

今回のレポートは準備に時間をかけておりますが、日本アンパティサッカー界において「リーグ文化の醸成」に向けて大きな一歩を踏み出すことができました。多くの方々から賛辞を頂くこととなりましたが、これもリーグ関係者を長い年月をかけて作り上げてきた本協会理事である岡崎隆典氏の努力の賜であることと改めて報告いたします。

国内外問わず多くのフットボールシーンにおいて、リーグ競技は他の大会よりも充実したスケジュールが組まれており、基幹となるリーグ戦を軸として行える環境を整える必要が感じられております。今日の日本アンパティサッカー界においては、多くの方々のご協力により日本選手とクラブアンパティの大会が併設されておりますが、実力の差を乗り越え、競い合える「上位に属する」といえる「頂上リーグ」を手にする」という現実を思い描いていくチームを数多く生み出してほしいことも重要となります。

トーナメント戦には多くの魅力がある反面、勝敗という大きな壁があり、当事者であるプレイヤーも指導者もなかなか思い切ったチャレンジが難しいという側面があります。リーグ戦においては、多くのプレイヤーへ公式戦出場機会の確保、育成、明確な目標を持ったチーム強化の場は、ヒューマンリソースへの継続的なアプローチへの役割を担っています。サポーターやファン層としての側面を確保一方で、ゲートウェイパスポートとしての側面を構築し「すそ野を広げていく」という目標をおかさないでほしいと考えています。特に、リーグ戦では「チームの主体性を高める」という大きな思いであり、エリートチームの中で競い合える「エリートチーム」が生まれてきます。グラウンドの手配から日程調整に始まり、当日の会場運営はホストチームの自主運営によってリーグ戦が行われています。

2019年に西日本で開催された「西日本アンパティサッカー交流戦」が発案し、2020年からは「西日本アンパティサッカーリーグ」も開催されることとなりました。2020年9月現在、新型コロナウイルスの影響により開催が延期となりました。しかしながら競技者や指導者のモチベーションを落とすことがないよう、関係者の不断の努力によりコロナ禍を契機とした新たな強化策が構築されようとしています。

本誌がアンパティサッカーファミリーを繋ぐための結節点の一つとなり得るためにも、時宜に合った情報収集と段階的な情報発信により広く読者の声を取り、継続的な発行を望む日本アンパティサッカーの発展に貢献されることを切に希冀いたします。

日本アンパティサッカー協会  
強化委員長 前橋 啓史

**JFA TECHNICAL REPORT 2020**

■ 東日本リーグ リーグデータ

2018 第1回大会結果（前期開催のみ）

順位	チーム名	FC ALVORADA	FC-TS ONE	MFC Bunkyo 千葉	FC-NISHINA 日守	勝	敗	引き分け	得失点	得失点差
1	FC ALVORADA	○3-0	○10-0	○3-0	○3-0	3	0	0	22	0
2	FC-NISHINA 日守	●0-1	○2-0	○2-0	○2-0	2	1	0	14	7
3	FC-TS ONE	●0-10	●0-6	●0-0	△0-0	0	2	1	4	-14
4	MFC Bunkyo 千葉	●0-0	●0-0	△0-0	●0-0	0	2	1	4	-10

得点ランキング  
1位 19得点 エンビッキ 松沢良 ジヤス (FC ALVORADA)  
2位 10得点 後藤 大輝 (FC-NISHINA 日守)  
3位 5得点 萩原 海人 (FC ALVORADA)

2019 第2回大会結果（前期・後期）

順位	チーム名	FC ALVORADA	MFC Bunkyo 千葉	FC-TS ONE	FC-NISHINA 日守	勝	敗	引き分け	得失点	得失点差
1	FC ALVORADA	○4-0	○2-0	○3-0	○3-0	6	0	0	18	0
2	MFC Bunkyo 千葉	●0-4	●0-2	○0-1	○0-0	2	3	1	7	-10
3	FC-TS ONE	●0-4	●0-2	△1-1	○0-1	1	3	2	5	-12
4	FC-NISHINA 日守	●0-7	●0-4	△0-1	●0-2	1	4	1	4	-14

得点ランキング  
1位 19得点 エンビッキ 松沢良 ジヤス (FC ALVORADA)  
2位 6得点 石井 賢 (FC ALVORADA)  
3位 5得点 萩原 海人 (FC ALVORADA) / 後藤 大輝 (FC-NISHINA 日守)

■ 東日本リーグ チームスタッツ

チーム名	シュート数			壁シュート数			得点回数			得失回数			得失数		
	2018	2019	2020	2018	2019	2020	2018	2019	2020	2018	2019	2020	2018	2019	2020
FC ALVORADA	68	71	76	12	20	3	22	17	21	0	0	0	5	6	7
FC-NISHINA 日守	62	52	55	11	40	40	14	2	4	7	14	10	15	1	3
FC-TS ONE	24	32	35	10	52	52	4	2	2	10	9	9	2	3	2
MFC Bunkyo 千葉	19	25	23	7	36	44	4	8	2	10	6	14	3	2	2
合計	194	191	189	44	128	147	44	29	32	16	14	14	14	14	14
		534						105							44

環境教育事業として、継続的に日本全国の教育機関にて、「アンパティサッカーを通じて障害の有無を超え、充実した共生社会の実現を目指す」という協会理念のもと、アンパティサッカー選手やクラブスタッフを中心とした選手の自己体験談（講演）やアンパティサッカーの体験会を実施いたしました。

管理部門では協会運営に関する意思決定の透明性や各種規則を遵守して運営を行う為、新たに弁護士である理事を中心としてガバナンスコード及び懲罰規程等の作成準備を進めています。

又、中長期的な資金繰り計画を策定し、選手の強化機会の創出や大会運営等を継続して運営出来る様、自己資金の効率的な資金運用を開始いたしました。





最後に、周知普及活動や新たな選手やファン層を獲得することを目的に当協会創立からの歩みや事業活動を総括した『日本アンパティサッカー協会公式ガイドブック』、及び新チーム創りのための『アンパティサッカー部門新設・チーム創設支援制度のご案内』を作成いたしました。



### III. 事業の主な実施状況

#### 1. 強化育成事業

##### ■ 東日本アンパティサッカーリーグ戦

2020年度で3期目を迎えた大会ですが、コロナ渦により当初予定していた東日本地区の4チームの常時参加ではなく、3チームによるホーム&アウェイ方式で、原則選手スタッフ関係者以外を会場に入れない無観客にて試合を行いました。各チーム、外出自粛により十分なトレーニングを行っていない状況を加味して、通常の25分から15分ハーフに変更、飲水時間を確保するなど、ルール変更いたしました。



昨年度に続き、当リーグ戦運営費の2/3はサッカーくじ「TOTO」スポーツ振興助成金を活用しています。

	東日本アンパティサッカーリーグ戦	日時	場所
プレ	FCアウボラーダ vs ACミランBB千葉	7月12日	フロントウンさぎぬま (神奈川県川崎市)
1節	大雨と雷雨により中止、9月27日に延期	7月26日	J STEP清水 (静岡県清水市)
2節	vs TSA FC vs TSA FC	8月30日	兼松都賀グラウンド (千葉県千葉市)
3節	ACミランBBee千葉 vs FCアウボラーダ	9月12日	岩名運動公園球技場 (千葉県佐倉市)
4節	TSA FC vs FCアウボラーダ	9月27日	フロントウンさぎぬま (神奈川県川崎市)
5節	FCアウボラーダ vs TSA FC	10月25日	フロントウンさぎぬま (神奈川県川崎市)
6節	TSA FC vs ACミランBBee千葉	11月15日	フロントウンさぎぬま (神奈川県川崎市)
7節	ACミランBBee千葉 vs FCアウボラーダ	11月29日	兼松都賀グラウンド (千葉県千葉市)
	参加チーム棄権により非公式フレンドリーマッチ	2月14日	富士通スタジアム川崎 (神奈川県川崎市)
	非公式フレンドリーマッチ	3月7日	兼松都賀グラウンド (千葉県千葉市)





## 2. 環境教育事業

教育の現場である小中高等学校、大学に赴いて、授業の一環としてアンプティサッカー選手による講演会や学生を対象とした体験会を実施しました。障がい者と健常者が隔てなく共に同じ社会で生きていける事をテーマとして、アンプティサッカーを介して学生向けへアプローチを行いました。

	環境教育事業	日時	場所
1	オンライン公開講座	10月13日	東洋学園大学
2	教育機関での講演会・体験会の実施	11月16日	川口市立芝小学校
3	教育機関での講演会・体験会の実施	11月20日	東京都荒川区立第六日暮里小学校
4	オンラインでの講演会	12月2日	環太平洋大学
5	教育機関での講演会・体験会の実施	12月3日	東京都港区立赤坂小学校
6	教育機関での講演会・体験会の実施	12月10日	横浜市立大正小学校
7	教育機関でのオリパラ事業の実施	12月15日	千葉県流山市立小山小学校
8	教育機関での講演会・体験会の実施	12月18日	千葉県八千代市立新木戸小学校

	その他事業	日時	場所
1	キッズブーケプロジェクト 学生活動報告会	11月22日	オンライン（ゲストトークセッション）
2	キッズブーケプロジェクト 朗読＆花の音楽会（朗読者）	3月21日	港区萬年山青松寺

## 3. 理事会実施要項

2020年度定期理事会は、以下4回を開催し、全てzoomシステムを活用したオンライン会議となりました。

	活動名	日時	主な議題
1	第8期第一回定期理事会	5月23日	理事長選任、国際大会開催中止の決議 コロナ禍における国内主要大会開催方針決定
2	第8期第二回定期理事会	8月18日	パートナーシップ契約 第七回レオピン杯CopaAmputee開催中止
3	第8期第三回定期理事会	10月15日	第10回日本アンプティサッカー選手権開催中止 オンラインイベント開催
4	第8期第四回定期理事会	3月18日	次年度事業予定及び収支予算 協会組織基盤整備





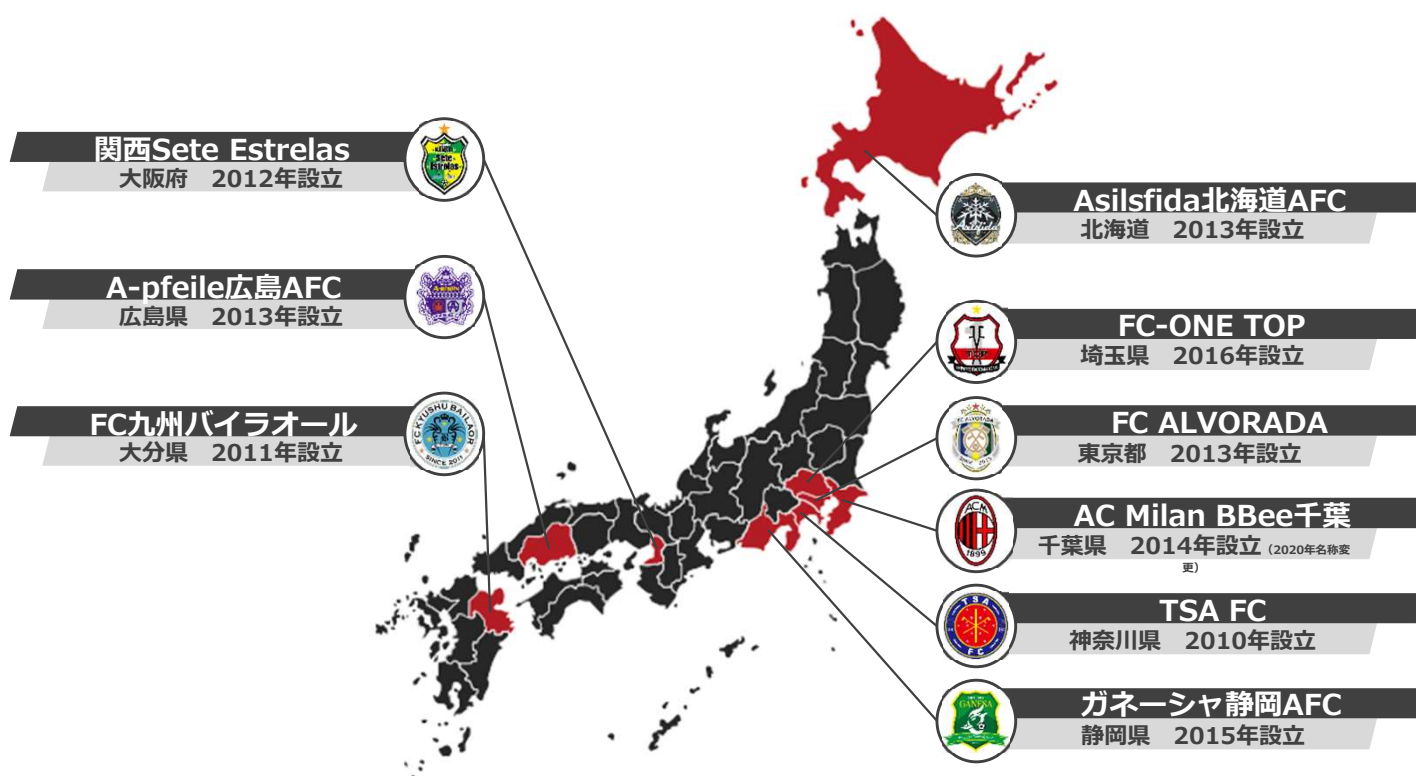
## IV. 2020年度収支報告

2020年度の総収入は、13,254千円となりました。  
その内訳としては、主に年間パートナー様からの協賛金である事業収入、及び当協会が加盟している日本障がい者サッカー連盟 (JIFF) からの分配金や日本スポーツ振興センターからの民間国庫助成金収入等になります。

費用見通しにつきましては、総事業費3,481千円となり、主に東日本リーグの運営費が占めております。  
総管理費では、外部パートナーへの支払いや印刷物の費用など、総額2,692千円となりました。事業費及び管理費合計で、6,174千円の総費用となります。

経常利益は、7,080千円と利益は確保致しました。主に年初計画していた各種主要大会が実施できなかったことによる事業費の減少に伴う事が要因となります。  
翌年度以降、新型コロナウイルス感染状況が収まり次第、各種大会を再開し、その事業費や感染対策費用、周知普及活動等に流用させて頂く予定です。

項目	金額 (千円)
事業収入	4,673
民間国庫助成金	7,255
受取会費	843
受取寄付金/その他	483
総収入	13,254
謝金	1,127
賃借料	1,048
その他事業費	1,306
総事業費	3,481
業務委託費	1,028
印刷製本費	524
その他管理費	1,140
総管理費	2,692
経常利益	7,080





## V. 2021年度事業計画

強化育成事業において当協会の主要大会である、レオピン杯コパアンプティ（開催時期9月）日本選手権（開催時期2月）を実施すると共に、東日本リーグの継続と昨年度新型コロナウイルス感染症拡大に伴い延期となった西日本リーグの開催を視野に入れております。

周知普及活動及び環境教育事業は、ソーシャルメディアを最大限活用してPRすると共に、パートナー企業との社会貢献活動の実施、小中学校を中心とした障がい者と健常者の共生社会実現に向けた取り組みを引き続き実施します。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	東日本リーグ				レオピン杯		東日本リーグ			日本選手権	
	西日本リーグ					西日本リーグ					

	事業名	日時	場所
①	東日本アンプティサッカーリーグ 2021年度（前期）大会	5月～7月 （土、日）	フロントタウンさぎぬま、 兼松株式会社都賀グラウンド
②	西日本アンプティサッカーリーグ 2021年度（前期）大会	5月～7月 （土、日）	九州・四国・関西地区各地
③	第七回 レオピン杯Copa Amputee	9月25日(土) 26日(日)	花博記念公園鶴見緑地球技場 （大阪市）
④	東日本アンプティサッカーリーグ 2021年度（後期）大会	11月～1月 （土、日）	フロントタウンさぎぬま、 船橋市高瀬下水処理場上部運動場 （タカスポ）
⑤	西日本アンプティサッカーリーグ 2021年度（後期）大会	10月～12月 （土、日）	九州・四国・関西地区各地
⑥	第10回 日本アンプティサッカー選手権大会	2月19日(土) 20日(日)	富士通スタジアム川崎 （川崎市）

## 日本アンプティサッカー協会 パートナー企業一覧

現在、当協会は以下4社様と協会の理念及び活動に賛同頂き、個別のパートナーシップ契約を締結しております。また、JIFFを介して1社様とパートナー契約を頂いております。引き続き、ご支援を賜りますようお願いいたします。

### アンプティサッカー パートナーシップ契約企業

2021年3月末現在



### 日本障がい者サッカー連盟 (JIFF) パートナー企業

2021年3月末現在





**特定非営利活動法人 日本アンプティサッカー協会**  
**Japan Amputee Football Association**